

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和2年3月2日

法人名	園名
学校法人子供の家学園	認定こども園 子供の家幼稚園

まとめ

第2章第2節 乳児期の園児の保育	乳児の園児は受け入れをしておらず、評価より除外。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	<p>【健康】保育者が愛を持って園児に関わり、子ども達も安心して園生活を送れていると感じる。様々な発達段階にある子ども達にとって、すべての生活習慣を身につける事は難しいが、保育士は諦めずくり返し指導する必要がある。</p> <p>【人間関係】保育者が園児一人一人を大切にすることにより、子ども達が安心できる園生活を提供することができている。今後も当園が大切にしているキリスト教保育に基づいて、一人一人の子ども達を大切にすることであり続けなければならない。狭い敷地にある当園にとって、子ども達が興味を持って様々な事に関わりづらいう事は確かにあると思う。これは今後の課題である。</p> <p>【言葉】園児が自らの力で積極的に話そうとする指導と意欲づけが出来ていると感じる。</p> <p>【表現】現在、子ども達が豊かな感性を得るために、積極的に子ども達が遊びやすい土搬入等の準備を行っている。保育者たちは子ども達が多くの事を想像できる様に様々な話の準備が必要である。今後の課題である。</p>
第2章第4節 満3歳以上満3歳未満の園児の保育	<p>【健康】当園が目指す様々な目標に取り組み、それを達成することは、園児の自信と自己受容にとって非常に大切な事である。他方、運動や製作などが苦手な子に他の園児と同じような目標をする事は、その子どもにも苦痛とコンプレックスを植え付ける事にもなる。保育者は、その園児の発達状況を深く理解し、その子どもに合った目標設定をする必要がある。</p> <p>【人間関係】友達や地域の様々な人々の関わりによって、子ども達は他者を思いやる正義感が身についている。自我が強く芽生える子ども達にとって自らでなく、他のお友だちの思いに気づくことは難しい事であるが、保育者は他の園児の気持ちを理解する大切さを積極的に子ども達に伝えなければならない。</p> <p>【環境】子ども達に様々な体験をしてもらうためのカリキュラム設定が必要である。特に地域の諸施設での関わり、動物との関わりが必要であると感じた。今後の課題である。</p> <p>【言葉】日頃から礼拝の中の聖者の話や、絵本の読み聞かせなど、当園の子ども達は、人の話をしっかり聞ける子どもが多い。積極的に自分の思いを他者に伝えるための取り組み、発表の機会を増やしても良いように感じる。</p> <p>【表現】保育者が様々な工夫を行い、子ども達の表現力を養っている。</p>
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	<p>【満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関する配慮事項】子ども達の精神・身体（事故、病気）に対する配慮が十分になされている。</p> <p>【認定こども園における教育及び保育の全般における配慮事項】園児たち一人一人に寄り添い、身体的、肉体的発達に合わせて、適切な関わりを持つことができています。</p>
第3章 健康及び安全	<p>【健康支援】全ての保育者が共通した目標を持って保育にあたるため、健康に関する保育計画作成は急務である。</p> <p>【食育推進】園における食育は十分に行う事ができている。今後、地域の人々と如何に関わって食に関する取り組みを行うかを検討する必要がある。</p> <p>【環境及び衛生管理】概ね環境、衛生管理、安全管理が出来ている。サポートが必要な園児に対し、もう少し保育者が保護者と積極的に関わる家庭訪問等の必要性がある。</p> <p>【災害への備え】災害に備えて、地域の避難場所への避難や地域施設や保護者との連携を踏まえた避難訓練が必要である。</p>
第4章 子育ての支援	<p>【子育ての支援に関わる事項】保護者との関わりを深め、保護者が思いを語る事のできる機会を増やす必要がある。</p> <p>【認定こども園の園児の保護者に対する子育て支援】保護者に対する子育て支援は概ねできている。しかし、特に配慮を必要とする家庭に対する関わりは不十分に考える。今後、更なる細やかな配慮が必要である。</p>
第5章 職員の資質向上	<p>【教員の資質向上に関する基本的事項】概ね専門性を高めるための努力と組織の取り組みがなされている。</p> <p>【施設長の責務】施設長として地域社会との積極的関わりを持つことが必要。</p> <p>【職員の研修等】当園は様々な研修を計画している。概ね職員もそれに積極的に取り組んでいる。いかに高いモチベーションをもって保育者が研修に参加する事ができるか、園も考えなければならない。</p> <p>【研修の実施体制等】全員が研修を受ける事の出来る機会を与えている。また、その学んだ内容を職員会議等で他の職員に伝える様に発表してもらっている。今後もこの取り組みを続けていきたい。</p>
総合	限られた狭い敷地内で子ども達に興味や関心を得られる保育の提供を計画する。子ども達が生き物や植物を大切に出来るように、栽培や飼育ができる環境を整備計画する。一人一人の気持ちをくみ取り、これまでの保育を継続していく。今後、地域との連携を図り実際の避難場所までの訓練も行っていく。保護者との連携と組織または個人に密接に関わる事のできる仕組みをつくる。支援が必要な家庭には園が積極的にサポートできる体制をつくる。保育の質の向上のために今後も全職員に研修に参加してもらい、そこで学んだ事を披露したり、保育者が高いモチベーションを保てるように園としてサポートしていく。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	—	—
「3歳未満児保育」	32	4.34
「3歳以上児保育」	53	3.5
「教育保育の配慮事項」	10	4.05
「健康・安全」	29	3.51
「子育ての支援」	10	3.45
「職員の資質向上」	9	3.78
計	143	

データグラフ

